

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月22日

事業所名 (社福)四恩会 チェンジA.

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			・個別対応の部屋を確保している。 ・プログラムを2種類以上できる空間を確保している。 ・その日の利用者人数に応じて、部屋を区分するなど、部屋の使い方を工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	○				
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・面談時にご要望等を聞いたり、ご家族へのアンケートを実施し、業務改善につなげている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・アンケートを実施した内容を更新して、公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		・今後、検討する。
適切な 支援の 提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・外部研修は随時参加している。又内部研修は、3回/年実施している。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・年に2回、ご家族との面談をして、アセスメントの再確認をし、ご要望等を確認して職員間で話し合いの場を設けて、計画の作成を行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・季節に応じた活動や、月に一度お楽しみ会を設け、子ども達が主体となり、楽しめる活動を考えている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		・活動内容がマンネリ化しないように、職員間で話し合いの場を設けている。	・プログラム内容のマンネリ化があり、工夫が必要である。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			・その日の子ども達に合わせて、個別課題と集団活動を組み合わせている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			・ご家族からの要望を聞きながら、個別課題と集団課題を組み合わせ、計画に盛り込んでいる。	
15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・毎日ミーティングを開き、前日の引き継ぎや当日の活動や支援内容について話し合いを行っている。		
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			○	・ミーティングの時に、活動内容の振り返りや利用者さんの様子、ご家族や学校からの引き継ぎ等を、職員間で話し合い、情報共有している。 ・終了日には緊急時のことはすぐに周知しているが、普段は次の日のミーティングで話し合いを行っている。		
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・個別記録票に日々の支援や気づきを記載し、ミーティングの時に支援内容の検討を行っている。		

適切な支援の提供	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・半年ごとに、ご家族との面談とモニタリング会議を開き、計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			・学校のお迎え時に、各先生からその日の様子を聞いている。又、学校行事やお迎え時間の変更等の確認を適宜行っている。	
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	・医療的ケア時の受け入れはしていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○	・今年度、対象児無し。 ・利用前に保育園等でご本人さんの様子を見せて頂き、先生からの話を聞く機会を設けている。	・今後も、対象時の利用希望があったときに、連携を図っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			・移行先での支援会議等に参加したり、事業所内での様子を見てもらう機会を設け、情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			・児童館へ遊びに出かけたり、社会福祉協議会等が開催する活動に参加したり、中学生等のボランティアの受け入れを行っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			・市の事業所連絡会に参加し、市役所や各事業所との情報共有を行い、連携を図っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・送迎時や連絡帳等で日々の様子を伝え合い、情報を共有する機会を設けている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	・相談があった時は、療育的観点からアドバイスをしている。	・全職員がアドバイスできるわけではなく、勉強がもっと必要である。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・契約時や変更があった場合、適宜説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			・保護者会を開き、保護者間での交流の機会を設けている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			・苦情受付書や苦情対応フローチャートを作成し、迅速に対応できるようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・毎月の活動プログラムと、年に4回会報を配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			・外部で使用する場合は、必ずご家族に確認を得て、了承をとっている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・利用者さん個々に応じた伝え方を工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	・社会福祉協議会主催の行事に参加したり、中学生や大人のボランティアの受け入れを行っている。 ・子ども100番のつながりや、地域住民とのつながりを持っている。	・今後、地域の行事に参加できる機会を検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			・全職員に配布している。又、玄関先に回覧している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・年に5回(火災・地震・津波・水害・防犯・消防立会い)訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			・外部研修への参加と内部研修を実施し、常に意識が持てるように指導している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		・現在、身体拘束をしている利用者がいない。 ・現在、対象児はいないが、やむを得ず身体拘束をする際は、保護者さんとの話し合いの中で了承を得て、個別支援計画に盛り込み、その際の記録を行う体制を整えている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			・適宜、保護者さんへの確認を行い、連携を図っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			・ヒヤリハットを作成し、全職員が回覧できるようにしている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月22日

事業所名 社福)四恩会 チェンジA

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・面談時にご要望等を聞いたり、ご家族へのアンケートを実施し、業務改善につなげている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・アンケートを実施した内容を更新して、公表している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・内部・外部研修の参加を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・年に2回、ご家族との面談をして、アセスメントの再確認をし、ご要望等を確認して職員間で話し合いの場を設けて、計画の作成を行っている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・ご家族からの要望を聞きながら、個別課題と集団課題を組み合わせ、計画に盛り込んでいる。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎日ミーティングを開き、前日の引き継ぎや当日の活動や支援内容について話し合いを行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・個別記録票に日々の支援や気づきを記載し、ミーティングの時に支援内容の検討を行っている。	
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年ごとに、ご家族との面談とモニタリング会議を開き、計画の見直しを行っている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・保育園を訪問したり、会議には市役所職員も参加してもらい、連携を図っている。		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			・利用前に、保育園を訪問させて頂き、本人の様子を見ながら、話を伺う機会を設けている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○				
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・相談があった時は、療育的観点からアドバイスをしている。	・全職員がアドバイスできるわけではなく、勉強がもっと必要である。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・社会福祉協議会主催の行事に参加したり、中学生や大人のボランティアの受け入れを行っている。 ・子ども100番のつながりで、地域住民とのつながりを持っている。	・今後、地域の行事に参加できる機会を検討する。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・全職員に配布している。又、玄関先に回覧している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年に5回(火災・地震・津波・水害・防犯・消防立会い)訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・アセスメントの時にご家族から話を聞き、変化があったときには、随時確認をとっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・適宜、保護者さんへの確認を行い、連携を図っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・外部研修への参加と内部研修を実施し、常に意識が持てるように指導している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・現在、対象児はいないが、やむを得ず身体拘束をする際は、保護者さんとの話し合いの中で了承を得て、個別支援計画に盛り込み、その際の記録を行う体制を整えている。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年 3月22日

事業所名 (社福)四恩会 チェンジA

保護者等数(児童数)22 ・回収数17 ・割合77. 3%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	94.1	0	0	5.9	・具体的に何人いる子どもに対して、職員が何人も知らない。	・年度初めに、利用者さんの人数や職員数等を会報に載せて、親御さんに配布しています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100	0	0	0		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	100	0	0	0		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	88.2	5.9	0	5.9		・子ども達が楽しくいろいろな体験を積むことができるように、固定化しないように、工夫をしています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	23.5	23.5	5.9	47.1	・現状で満足している。 ・他の子どもと活動した等、聞いたことが無い様に思う。	・交流の機会を持つことができるように、検討していきます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100	0	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	88.2	0	5.9	5.9		・送迎時と受け渡し時、連絡帳等で伝えているが、不十分なこともあるため、もう少し蜜に情報を伝え合っていきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100	0	0	0		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	29.4	17.6	0	53	・現状で満足している。	・今年度、始めて父母会を開催した。今後も、年に2回程、開催する予定です。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	76.5	5.9	0	17.6		・過去に苦情の申し出があったときに、ご家族に謝罪説明し、対応法等を文章で全利用者家族に配布しています。
12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100	0	0	0			

保護者への説明等	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100	0	0	0	
	14	個人情報に十分注意しているか	88.2	0	0	11.8	・外部で情報を使用する場合は、必ずご家族に確認を取る等、無断で使用しないように徹底しています。
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	76.5	0	0	23.5	・様々な努力をいただいているが、安全カメラの設置・不審者対策等は、現状が厳しいと思いますが、もう少し頑張ってください。 ・玄関に防犯対応などはきちんと行われているが、ドアがいつも開いているのはどうか。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	82.4	0	0	17.6	・年に5回(火災・地震・津波・水害・防犯・消防立会い)訓練を、子ども達と一緒に実施しています。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	94.1	0	0	5.9	・子ども達が、楽しく来所することができるように、一層の努力をしていきます。
	18	事業所の支援に満足しているか	100	0	0	0	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。